

一体的改革で高校「国語」は どう変わるのか

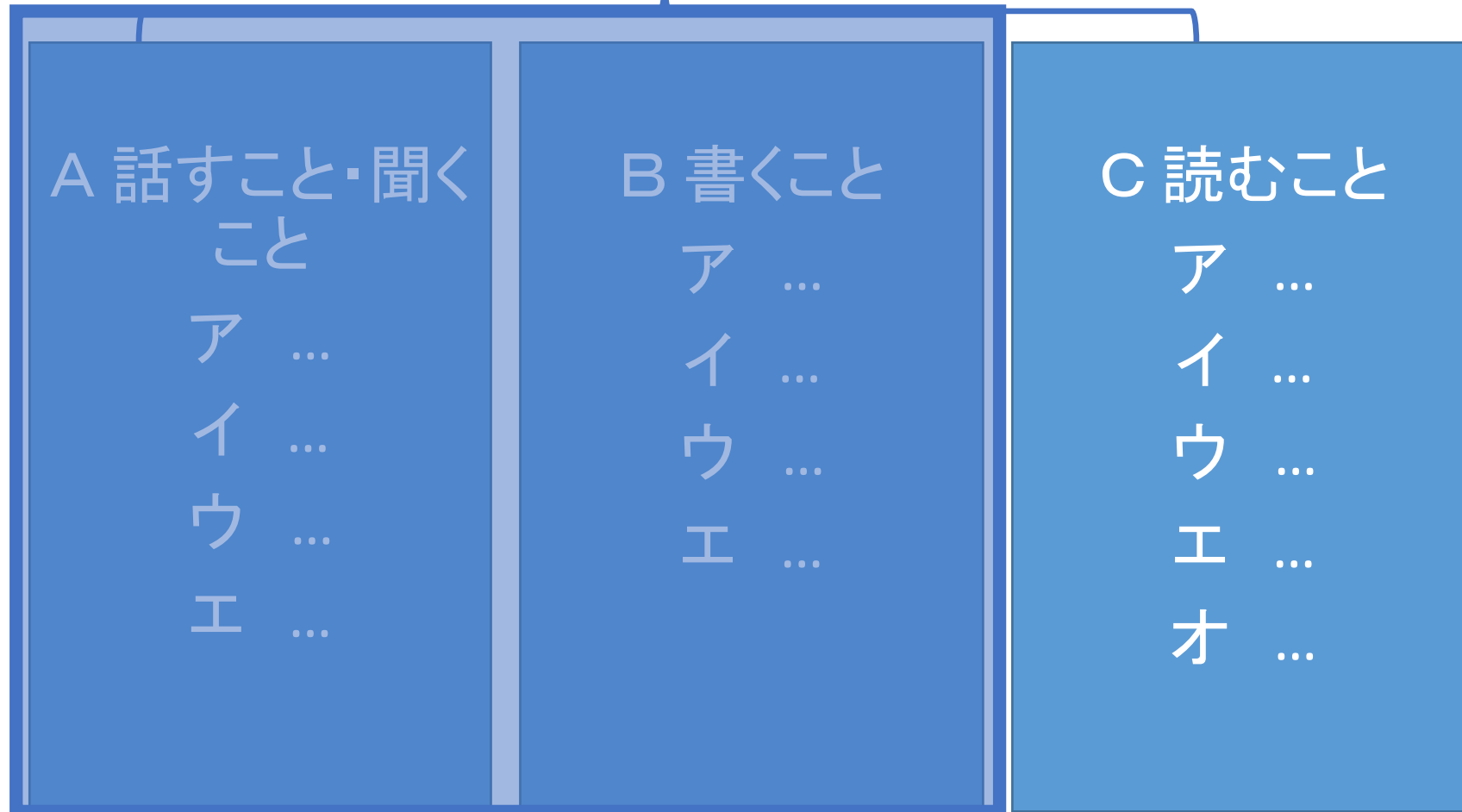
筑波大学アドミッションセンター

島田康行

学習指導要領「国語総合」の構造

3領域

1事項



「C 読むこと」の指導事項

C 読むこと

(1) 次の事項について指導する。

ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。

イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて
要約や詳述をしたりすること。

ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。

エ 文章の構成や展開を確かめ、
内容や表現の仕方について評価したり、
書き手の意図をとらえたりすること。

オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、
考え方を豊かにしたりすること。

「C 読むこと」の言語活動

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。

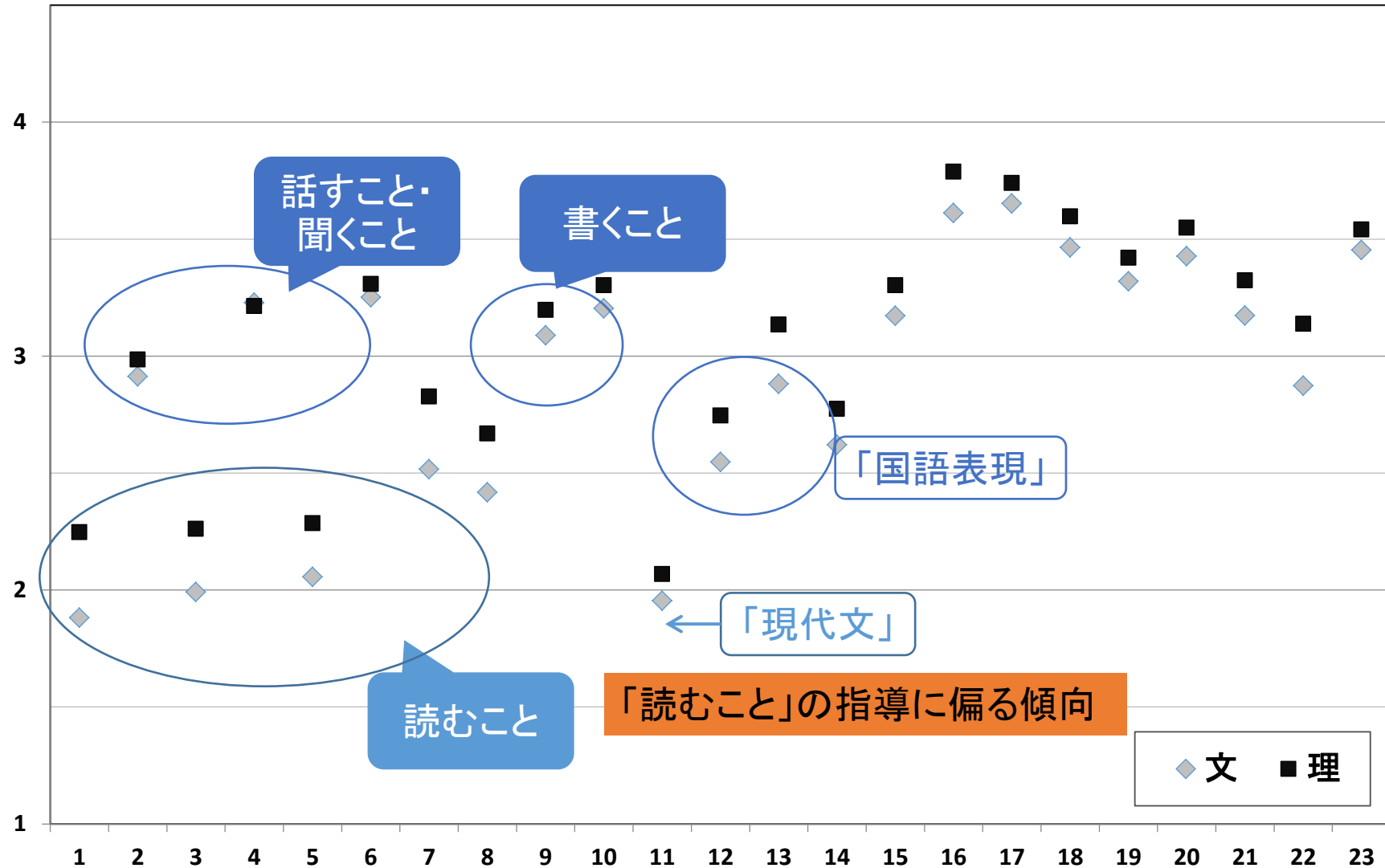
イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。

ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。

エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。

参考：

島田 (2014) 大学新生が高等学校で経験した「国語」の学習内容



伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。

(イ) 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。

(イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。

ウ 漢字に関する事項

(ア) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。

大学入試センター試験「国語」の出題範囲

- 「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」に関する出題なし
 - 「C 読むこと」に限定
 - 「C 読むこと」の一部は出題なし(?)
 - * 要確認
 - * 身に付けるべき能力 ⇔ 大学入学に必要なとなる能力
 - * 形式の問題
- ⇒ 「国語」指導事項のごく一部
- … 残る部分は必要に応じて個別学力検査等で

個別学力試験「国語」実施状況の例

【筑波大学】

必修	人文	70	147(前期定員の11.2%)
	比文	50	
	日日	27	
選択	教育	28	278(前期定員の21.2%)
	心理	38	
	障害	20	
	看護	45	

【東北大学】

文	200	585(前期定員の32.0%)
教	60	
法	140	
経	185	

⇒ 定員に対する比率小さい

「国語」試験問題分析の言説

現代文では、評論で受験生にとって古めかしく感じられる文章が出題された昨年に比べ、今回は現代のメディア状況における知のあり方を論じる文章からの出題であった。古文では、物語が出題されるのは3年連続だが、今年の「源氏物語」のような有名作品ではなかった。漢文では、基礎的な文法事項を問う問題が2問あるのは目を引くが、本文に返り点の省略箇所がなく解きやすくなっていた。

(平成27年度大学入試センター試験)

- 文章の内容
- 文章のジャンル
- 問われた知識・技能
- 難易度

「国語」試験問題分析の言説

例年どおり、全体的に基本問題が中心だった。大問二は2008年度以来、説明文から出題されており、それまでの論説文よりも内容をとらえやすい。昨年久しぶりに漢文が出題された大問三は古文に戻った。大問四は一昨年が詩、昨年は短歌、今年は俳句に関する文章へと変化している。どの大問も取り上げられた文章が読みやすく、丁寧に読み進めていけば解答できる問題となっている。平均点は昨年と同程度か、やや上がるだろう。

(平成27年度 某県立高校入試問題)

- 難易度
- 文章のジャンル、内容

「国語」試験の課題

- 関心のありか

- ：課題文のジャンル、内容、難易度

- ×：どのような言葉の力が測られたのか

- ...今年の現代文では、目的に応じて文章の形態や文体を工夫して書く力が重点的に問われた

- ...表現の仕方を評価する力を問う問題が特徴的だった

- 問われた能力に関する振り返りが無い

- 教材(学習材)として有効に機能しない

- 授業改善につながらない → 授業内容がやせ細る

新テスト 問題イメージ例 (H27.12)

- 問題イメージ〈例1〉の冒頭

「国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査(論理的な思考)」
(平成24年2月実施)より一部改題」

- H24「特定の課題に関する調査(論理的な思考)」

国公立160校の高校2年生約5,500人対象

高校生の論理的思考力の状況を把握・分析しようとする初の試み
論理的な思考の過程における活動として6種を挙げる。

活動	具体的な内容
① 規則、定義、条件等を理解し適用する。	資料から読み取ることができる規則や定義等を理解し、それを具体的に適用する。
② 必要な情報を抽出し、分析する。	多くの資料や条件から推論に必要な情報を抽出し、それに基づいて分析する。
③ 趣旨や主張を把握し、評価する。	資料は、全体としてどのような内容を述べているのかを的確にとらえ、それについて評価する。
④ 事象の関係性について洞察する。	資料に提示されている事象が、論理的にどのような関係にあるのかを見極める。
⑤ 仮説を立て、検証する。	前提となる資料から仮説を立て、他の資料などを用いて仮説を検証する。
⑥ 議論や論証の構造を判断する。	議論や論争の論点・争点について、前提となる暗黙の了解や根拠、また、推論の構造などを明らかにするとともに、その適否を判断する。

場面設定としての「言語活動」

- 「知識の習得だけではなくて、その知識をどうやって実社会の文脈なども含めて活用していくのかということが、初等中等教育の非常に大きな課題として、この10年ほど取り組んできたことだと思います。それが、...(中略)...高等学校の入試というところまではたどり着いているわけですが、それをどうやって高等学校教育と大学入試、大学教育につなげていくのかというのが今回の高大接続の非常に大きな課題だと思いますので、今の高等学校学習指導要領の問題も含めて、初等中等教育ともよく連動しながら、それをうまくつなげて実現していくという方向で更に練っていきたいと考えております」

(高等教育局長の発言 「高大接続システム改革会議」第9回議事録)

- 全国学力・学習状況調査の「B問題」

あるキーワード

H24.6「社会の期待に応える教育改革の推進」(文科大臣発表)

- 考える力(クリティカルシンキング)やコミュニケーション能力等の育成、体験的な学びに重点をおいた新学習指導要領等の着実な実施とフォローアップ
- 高校・大学の教育と連動した入試改革、クリティカルシンキングを重視した入試への転換、センター試験の改革

H24.6「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」

- 志願者の意欲・能力・適性等の多面的・総合的な評価に基づく入試
- 思考力・判断力・知識の活用力等(クリティカルシンキング等)を問う新たな共通テストの開発

教育課程改訂の流れにおける

H24.9 中教審高校教育部会(第12回)

- 「批判的思考—これからの教育の方向性の提言—」(楠見孝)

H27.8 中教審初中分科会教育課程企画特別部会「論点整理」

- 物事を多角的・多面的に吟味し見定めていく力(いわゆる「クリティカル・シンキング」)、統計的な分析に基づき判断する力、思考するために必要な知識やスキルなどを、各学校段階を通じて体系的に育てていくことの重要性は高まっている...

教育課程改訂の流れにおける ～「国語」

H28.5 教育課程部会国語ワーキンググループにおけるとりまとめ(案)

- 物事を多角的・多面的に吟味し見定めていく力(いわゆる「クリティカル・シンキング」)については、国語科において育成すべき種々の思考力・判断力・表現力等の中で総合的に育まれることになる...

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の働きや役割に関する理解 ○言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の位相、書き言葉（文字）、話し言葉 ・敬語、方言 ・語、語句、語彙 ・文の成分、文の構成 ・文章の構造（文と文の関係、段落、段落と文章の関係） ○言葉の使い方に関する理解と使い分け <ul style="list-style-type: none"> ・話し方、書き方、表現の工夫 ・聞き方、読み方、音読・朗読の仕方 ・話合いの仕方 ○書写に関する知識・技能 ○伝統的な言語文化に関する理解 ○文章の種類に関する理解 ○情報活用に関する知識・技能 	<p>国語で理解したり表現したりするための力</p> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【創造的思考とそれを支える論理的思考の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 情報を多角的・多面的に精査し、構造化する力 <ul style="list-style-type: none"> ・推論及び既有知識・経験による内容の補足、精緻化 ・論理（情報と情報の関係性：共通－相違、原因－結果、具体－抽象等）の吟味・構築 ・妥当性、信頼性等の吟味 ➢ 構成・表現形式を評価する力 </div> <p>【感性・情緒の側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力 ➢ 構成・表現形式を評価する力 <p>【他者とのコミュニケーションの側面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 言葉を通じて伝え合う力 <ul style="list-style-type: none"> ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解 ・自分の意思や主張の伝達 ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り ➢ 構成・表現形式を評価する力 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>≪ 考えの形成・深化 ≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 考えを形成し深める力（個人または集団として） <ul style="list-style-type: none"> ・情報を編集・操作する力 ・新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉が持つ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度 ・言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団の考えを発展させようとする態度 ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通して、心を豊かにしようとする態度 ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度 ・我が国の言語文化を享受し、生活や社会の中で活用し、継承・発展させようとする態度 ・自ら進んで読書をし、本の世界を想像したり味わったりするとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したり、新しい考えに出会ったりするなどして人生を豊かにしようとする態度

・・・評価テスト(仮称)「国語」で何をどう測るか

- 育成すべき資質・能力の見直し
⇒ 測るべき能力の見直し

授業改善

- 問題形式とのマッチング

- 場面設定
- 多肢選択式
- 連動式複数選択肢問題
- 記述式(短答式を含む): 「記述式でしか測れない能力を」

記述式の導入は本質に非ず